

KDR 香港編集部特電：

一連の動きを見ると、中国空軍は、多くの大型輸送機を購入するなど戦略空輸能力を向上させている。2012年12月、ロシアは中国に中古のIL-76MD型を輸出した。この契約は2011年に締結されたものであり、最初の10機はロシア空軍、白ロシア空軍、ロシアの民間航空会社から抽出し、修理した後中国空軍に引き渡された。話によると20機程度が輸出されるようだ。これは過渡的な処置であり、38機の新造IL-76型機の輸出契約が履行されなかったための補償処置である。契約はロシア国家武器輸出入会社との間で締結された。

中国が過去に獲得したIL-76型機は、全て湖北省當陽の第13空輸師団第39連隊に配分された。2010年の衛星写真を見ると、僅かに8機だけが運用中である。これらの機体は1980年代に製造され、就役期間は20年を超えている。したがって中国空軍は2011年から中古のIL-76を購入し空輸能力を補完したのであろう。



新型輸送機 Y-20

中国の新型輸送機 Y-20 の試験飛行が順調に進行したとしても、完了するまでにあと5年は必要だ。新たな中古のIL-76が第4空輸師団を強化するために使われるのかどうか、本誌は、極めて疑問に思っている。その理由は以下の通り。

最新の衛星写真を見ると、四川省 QIONGLAY 飛行場 (30029N/10328E) は過去 1 年間に大幅に改修されている。2012 年 5 月に工事が開始され滑走路は現在改修中である。エプロンも拡張され幅は 169 メートルある。2010 年の時点ではエプロンが極めて狭く、幅はわずか 68 メートルしかなく、最大でも Y-7 が 7 機しか駐機できなかった。新たな格納庫、車庫、修理施設、大型の緑色屋根の格納庫が建設中である。長さ 20 メートル、幅 17 メートルの 10 個の緑色天井の格納庫に注意する必要がある。この格納庫には如何なる種類の航空機が入るのかは不明である。無錫 SHUOFANG 飛行場に建造された早期警戒機用格納庫はこれよりも大きい。



四川省 QIONGLAI 飛行場

QIONGLAY 飛行場の主滑走路は 2500 メートルから 2012 年には 3400 メートルに延長された。飛行場が工事中であったので、2012 年 5 月の衛星写真には如何なる輸送機も写っていなかった。僅かに数機の MIL-71 型ヘリが駐機していたがこれは元の 12 連隊のヘリと思われる。以前は Y-7 型輸送機部隊が駐屯して

いた。飛行場拡張の動向から判断すると、少なくとも Y-8 型、或いは中古の IL-76 型輸送機が進駐してくると思われる。第 4 空輸師団の主力 Y-8C 型輸送機 18 機は、貴陽飛行場に駐屯している。第 4 師団は、この他に 6 機前後の Y-7 を保有している。第 4 空輸師団を強化する理由は、戦時において中印国境、中越国境への機動輸送能力を確保するためであろう。

2011 年以降、陝西省漢中の陝西航空機会社は、少量の Y-8 を継続生産している。2011 年には全部で 14 機の Y-8 シリーズ機が工場内で発見されている。中国空軍は、Y-20 型が就役するまでの間、Y-8 を改良するだけで、不足分はロシア、及び白ロシアから中古の IL-76 を継続輸入する可能性が極めて高い。しかし限定的である。IL-76 型は、就役後全て 20 年を経過している。ロシア空軍も輸送機が不足している。したがって 2012 年に 39 機の IL746 型輸送機を緊急調達した。

弱体な Y-8 部隊や中古の IL-76 型輸送機に依存する状況では、中国空軍が中国内陸部での大規模空挺降下作戦を実施することは不可能である。当然その他の国家に対抗するためには空輸能力がネックとなる。大型機の数はいンド空軍にも及ばない。

以上

中国运-20运输机与世界主要运输机尺寸比较示意图

(根据网络图片绘制 仅供参考)

